令和４年度　甲賀市紫香楽宮跡歴史フォーラム

紫香楽宮跡の調査と８世紀の甲賀
資料集



令和５年３月１８日（土）　碧水ホール

主催：甲賀市教育委員会

日　程

開催日　令和５年（２０２３年）３月１８日（土）
会　場　甲賀市碧水ホール

12:30　　開場

13:00～　　主催者挨拶

13:10～13:40　報告１　「８世紀の甲賀」
渡部　圭一郎（甲賀市歴史文化財課）

13:40～14:10　報告２　「東山遺跡の調査」
小谷　徳彦（甲賀市歴史文化財課）

14:10～15:10　基調講演　「甲賀郡と紫香楽宮」
栄原　永遠男氏（前　大阪市歴史博物館長）

15:10～15:30　休　憩

15:30～16:30　フォーラム「紫香楽宮跡の調査と８世紀の甲賀」
コーディネーター　大﨑　哲人氏（滋賀県文化財保護課）
パネラー　栄原　永遠男氏
小谷　徳彦
渡部　圭一郎

目　次

報告１　８世紀の甲賀　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
渡部　圭一郎（甲賀市歴史文化財課）

報告２　東山遺跡の調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
小谷　徳彦（甲賀市歴史文化財課）

基調講演　甲賀郡と紫香楽宮　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
栄原　永遠男氏（前　大阪市歴史博物館長）

令和４年度紫香楽宮跡歴史フォーラム　2023.3.18

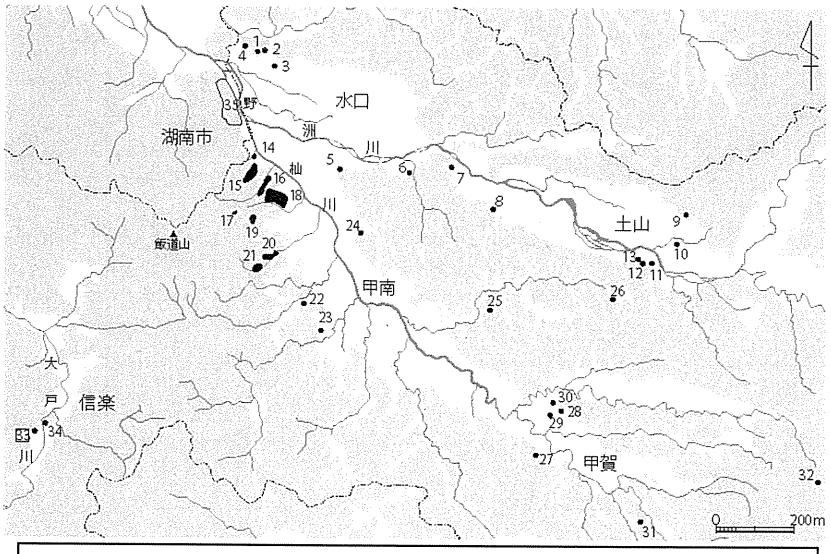
8 世紀の甲賀

甲賀市教育委員会　歴史文化財課　渡部　圭一郎

1. はじめに

2. 甲賀郡前史（古墳時代の甲賀）

・宮の森古墳（湖南市）（前方後円墳？）　5 世紀初頭か
・泉鑵子塚古墳群（円墳）　5 世紀前半
・塚越古墳（方墳）　5 世紀中頃
・波濤ヶ平古墳群　6 世紀末～7 世紀前半
・園養山古墳群（湖南市）
・飯道山東麓古墳群（岩坂・岩坂南・百合野・高山 etc）　6 世紀前半～7 世紀中頃
・杉谷古墳、相模古墳、岩室塚穴古墳群　6 世紀末
・勅旨古墳群　7 世紀前半



1・2　泉鑵子塚古墳群　3　塚越古墳　7　波濤ヶ平古墳群　14～21　飯道山東麓古墳群
23　杉谷古墳　28　相模古墳　11　岩室塚穴古墳群　33　勅旨古墳群

図１　古墳群の分布

3. 甲賀の集落遺跡の移り変わり（平安時代まで）

〔野洲川流域〕

・植遺跡　　5 世紀中頃～6 世紀後半
・下川原遺跡　6 世紀後半～8 世紀前半
・北泉遺跡　5 世紀代～6 世紀？
・北脇遺跡　9 世紀～12 世紀
・柏木遺跡

〔杣川流域〕

・竹石遺跡　6 世紀代
・貴生川遺跡　5 世紀後半
・大鳥居遺跡　6 世紀後半
　Cf.畦ノ平遺跡　（西暦 664 年伐採のスギ材）

〔大戸川流域〕

・雲井遺跡
・東出遺跡
・大垣外遺跡

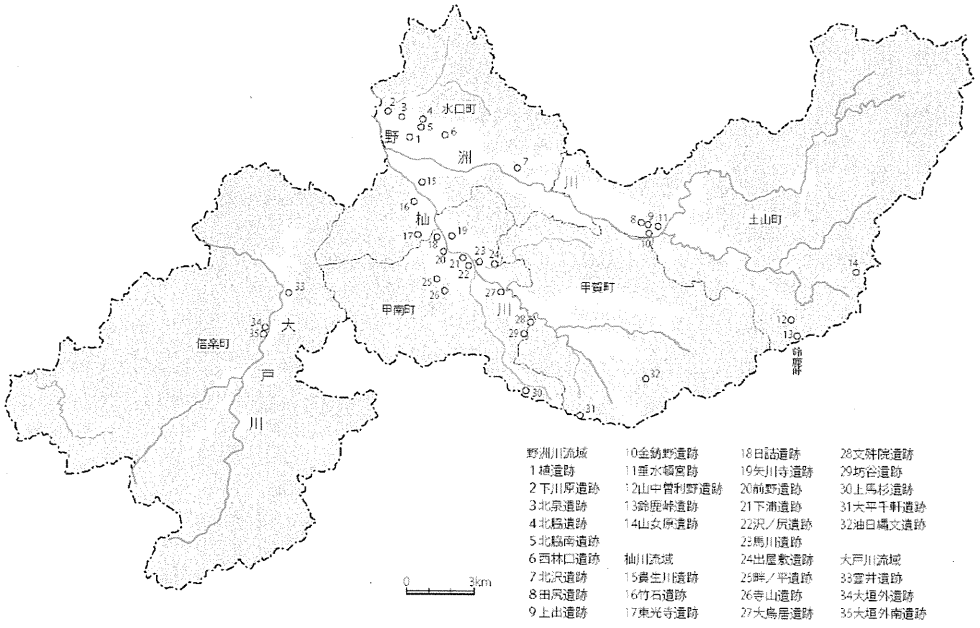


図２　集落・官衙遺跡の分布



図３　植遺跡でみつかった建物跡

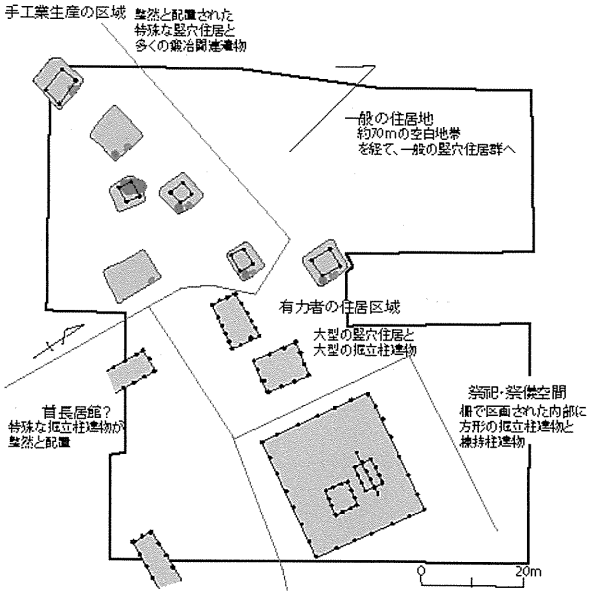


図４　６世紀後半の植遺跡

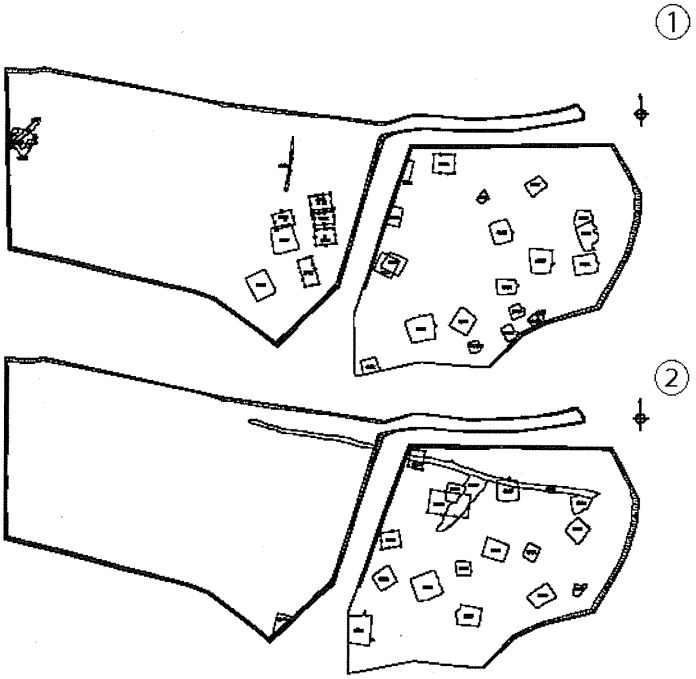


図 5　下川原遺跡の遺構変遷図

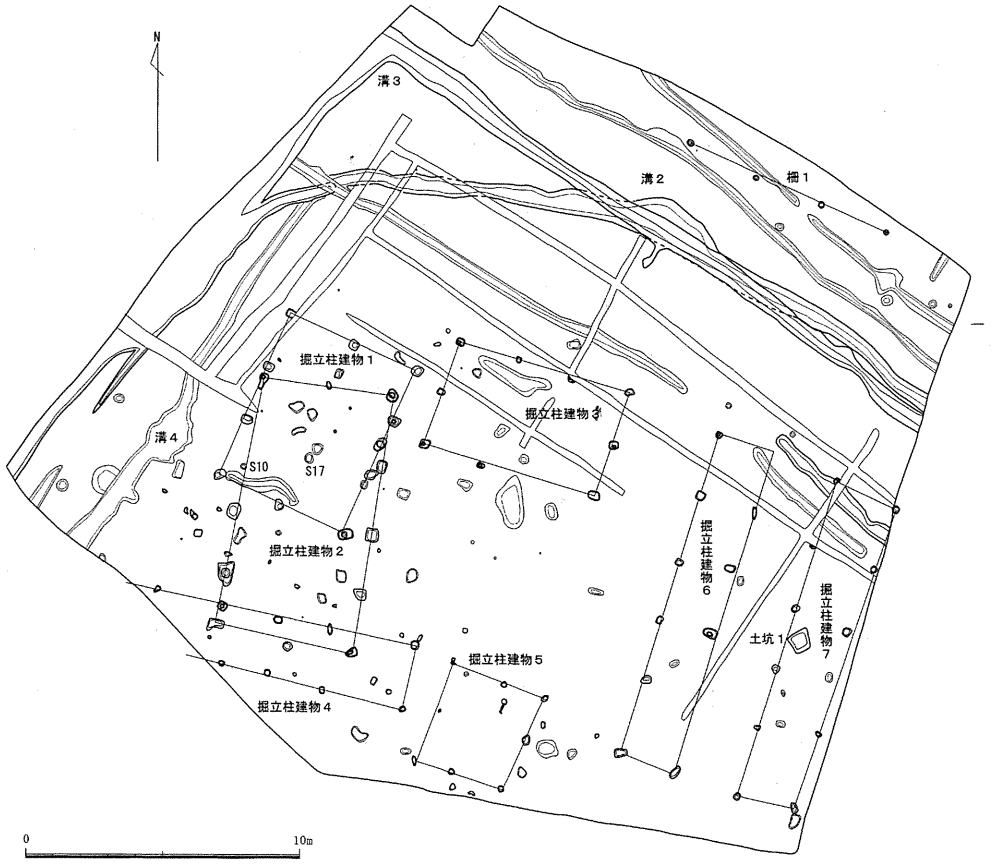


図 6　北脇遺跡でみつかった建物跡

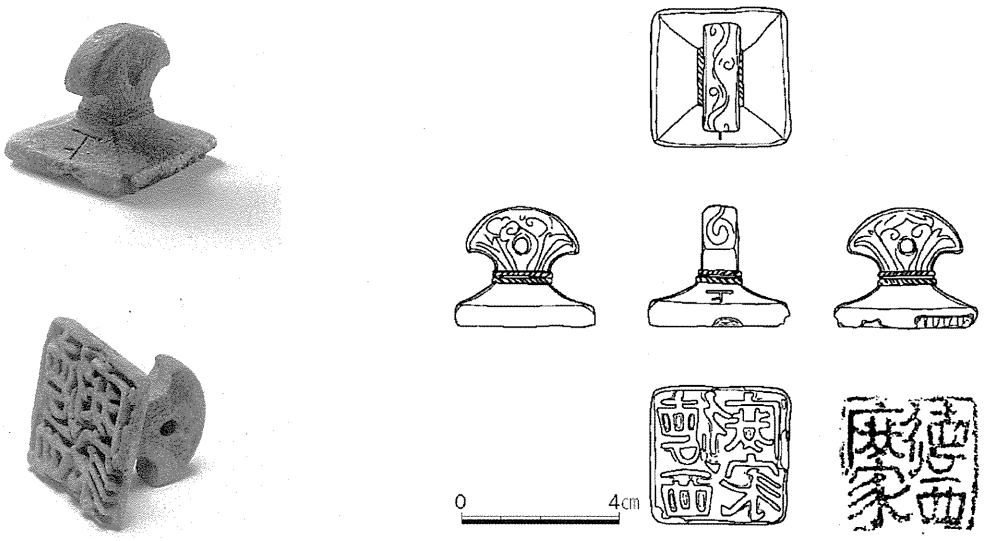


図 7　北脇遺跡出土　銅印

4. まとめ

群集墳の分布の密度や集落遺跡の様相からは古代における甲賀郡の政治的中心地域は植～北脇周辺の水口地域であったと考えられる。ただし 8 世紀代の様相については不明な点が多い。

信楽地域については、『続日本紀』「天平十四年八月　朕、近江国甲賀郡紫香楽村に行幸せむ・・」から元々ムラであったことがわかっている。発掘調査事例が少なく、実態は不明であるが古墳群が存在すること、集落遺跡がみられることから、現在の勅旨～牧周辺が中心であったと推定したい。また、『続日本紀』「天平十六年四月　紫香楽宮西北の山に火あり。城下の男女数千余人皆行きて山を伐る。然る後に火滅ゆ」の記事から紫香楽宮周辺に数千人が居住していた可能性がある。

発掘調査で見つかった建物跡について、植遺跡で見つかった大型倉庫群（5 世紀中頃）は四間×四間（床面積約 68 平米）で、その後に造られた豪族居館（6 世紀後半）は三間×五間や二間×四間以上の規模をもつ。北脇遺跡（9 世紀～12 世紀）でみつかった鍛冶工房と推定される掘立柱建物は一間×五間の規模をもつ。

甲賀市教育委員会事務局
歴史文化財課　小谷徳彦

東山遺跡の調査

１．紫香楽宮跡関連遺跡群と東山遺跡

①紫香楽宮跡関連遺跡群

甲賀市信楽町の北部　宮町・黄瀬・牧に分布　南北３km×東西２km

東山遺跡を含む６地区が史跡紫香楽宮跡に指定

②東山遺跡の位置

紫香楽宮跡関連遺跡群のほぼ中央部

③内裏野地区（甲賀寺推定地）との位置関係

同じ丘陵上に立地　南半に内裏野地区　北半に東山遺跡

２．東山遺跡の発掘調査

①第１次調査　平成16年度に実施

内裏野地区の北側での遺構確認調査　平行する２条の南北溝を確認

⇒　宮町地区と内裏野地区を結ぶ道路側溝？

②第２・３次調査　平成29・30年度に実施

遺跡範囲の北半を対象に実施　３棟の掘立柱建物を検出

大型建物 SB02001　桁行14間（約41m）以上×梁行４間（約15.8m）

東西に幅広の廂（北と南の端は確認できていない）

柱堀方：一辺1.0～1.2m　柱痕跡：20～25㎝

床束あり　建物の柱と同一堀方内に設置

南北棟建物 SB03001・SB03002　梁行１間の並立する２棟の建物

柱堀方：一辺0.7～1.1m　柱痕跡：20～25㎝

３．東山遺跡の性格～５つの仮説～

仮設１：離宮段階の紫香楽宮

「紫香楽宮」と「甲賀宮」が別の場所　→　宮町地区の遺構変遷に課題

仮設２：大仏体骨柱の立柱式に伴う臨時施設

大型建物 SB02001 が南北棟　→　天皇の入る施設が南面しない

大仏造立の場所が丘陵の頂部ではなくなる　→　大仏の前面に丘陵頂部

仮設３：造甲賀寺所に伴う施設

南北棟建物 SB03001・SB03002 が梁行１間　→　鍛冶屋敷地区と共通

大型建物 SB02001 と南北棟建物 SB03001・SB03002 の間に谷が入り込む

→　上人ヶ平遺跡など谷に隣接する工房跡との共通性

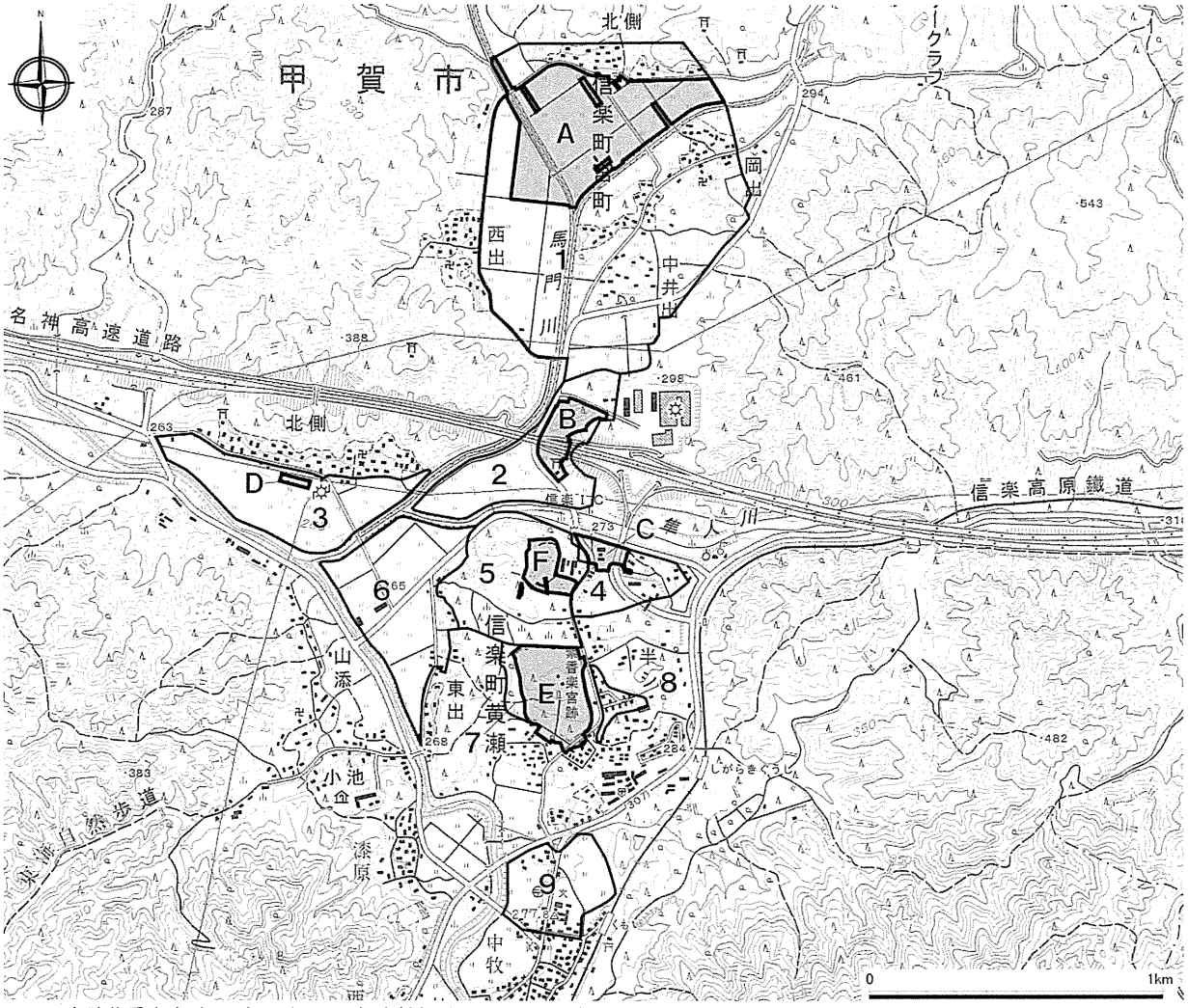
大型建物 SB02001 が床張り　→　西田中遺跡の大型建物との共通性

仮設４：甲賀寺に関連する施設

甲賀寺の寺域が丘陵全体に及ぶと過程　→　全容不明

仮設５：紫香楽宮で行われた写経に関連する施設

大型建物 SB02001 が床張りである　→　出土遺物での検証が難しい



A～F:史跡紫香楽宮跡(A:宮町地区　B:新宮神社地区　C:鍛冶屋敷地区　D:北黄瀬地区　E:内裏野地区　F:東山地区)
1:宮町遺跡　2:新宮神社遺跡　3:北黄瀬遺跡　4:鍛冶屋敷遺跡　5:東山遺跡　6:東出遺跡　7:内裏野廃寺　8:紫香楽宮東遺跡　9:雲井遺跡

図１　東山遺跡と紫香楽宮跡関連遺跡群

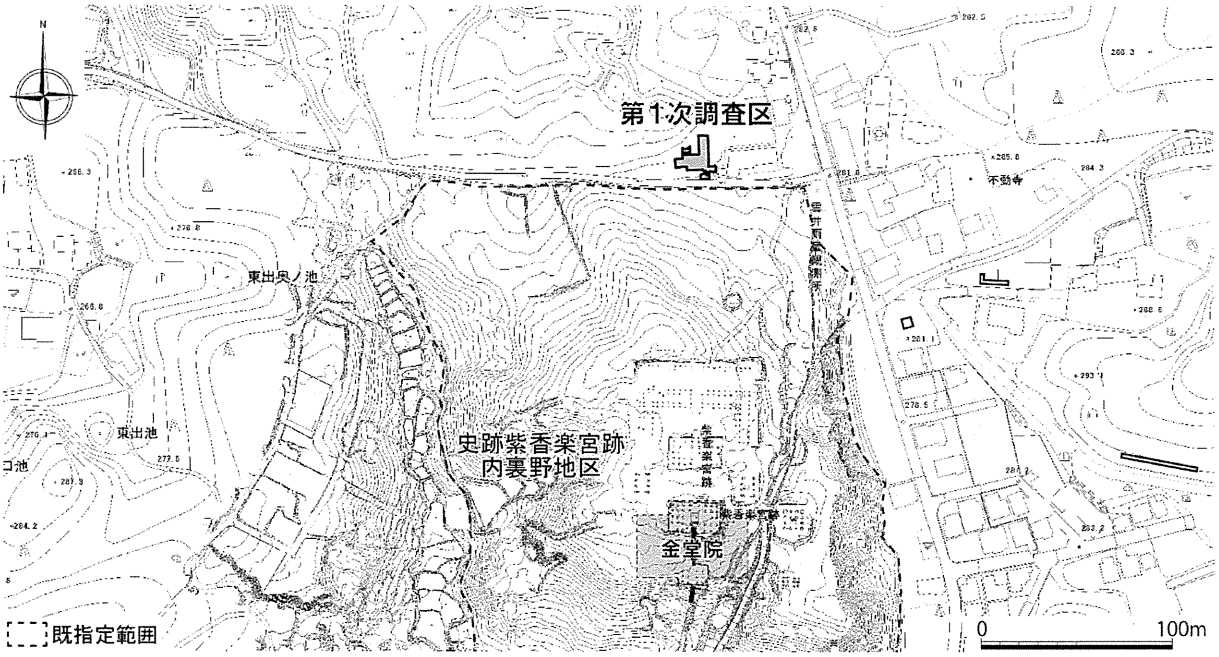


図２　東山遺跡第１次調査の実施位置

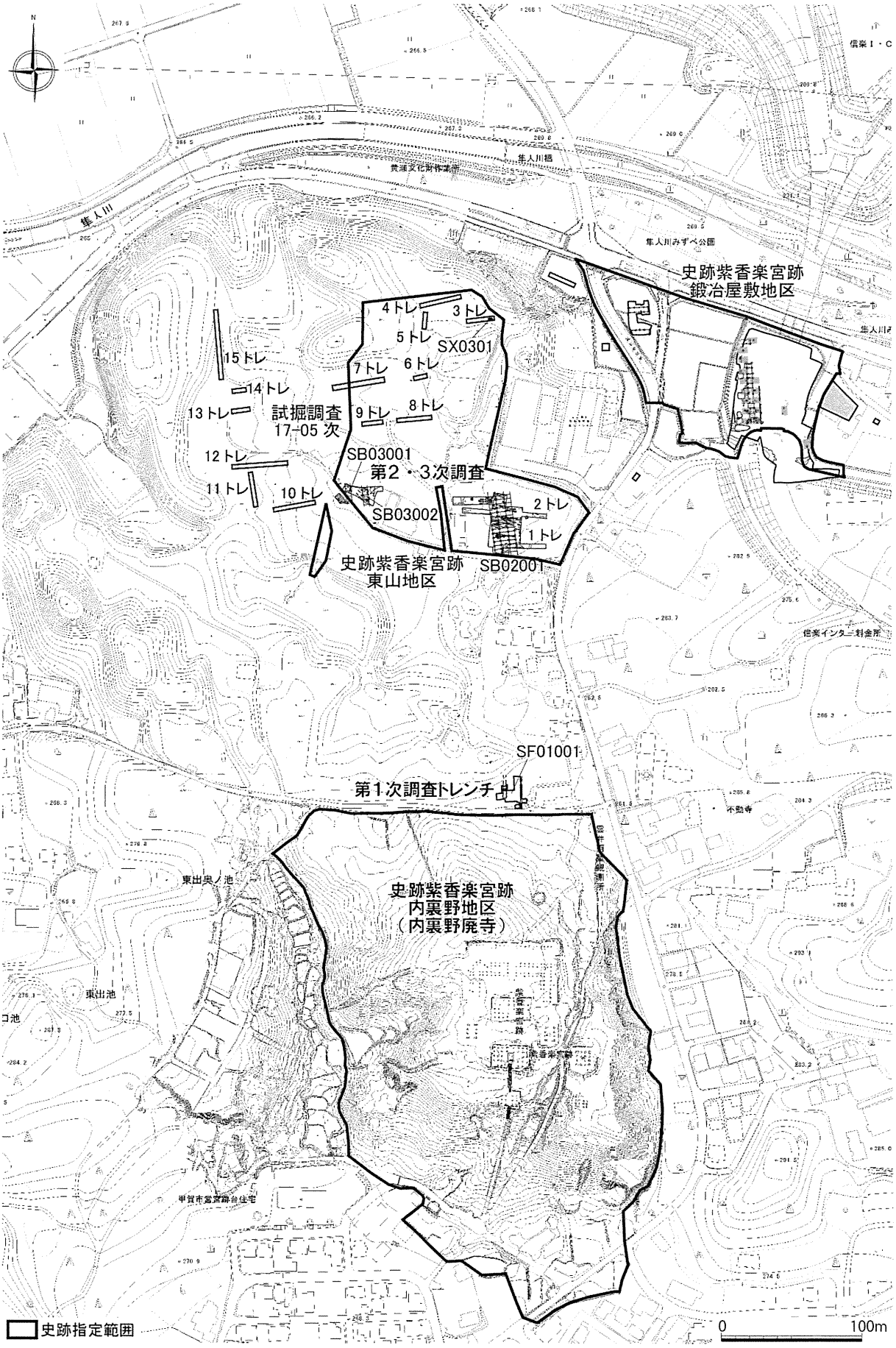


図３　東山遺跡の調査位置　１：4,000

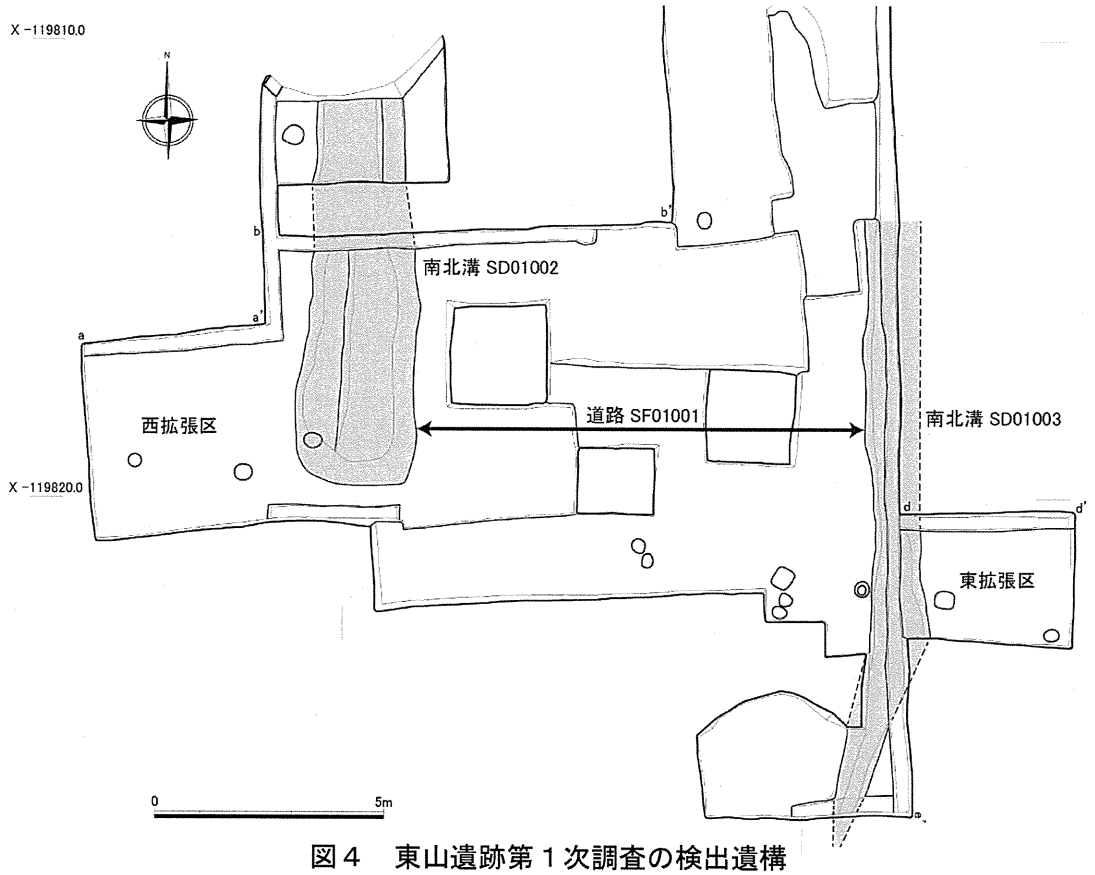


図４　東山遺跡第１次調査の検出遺構

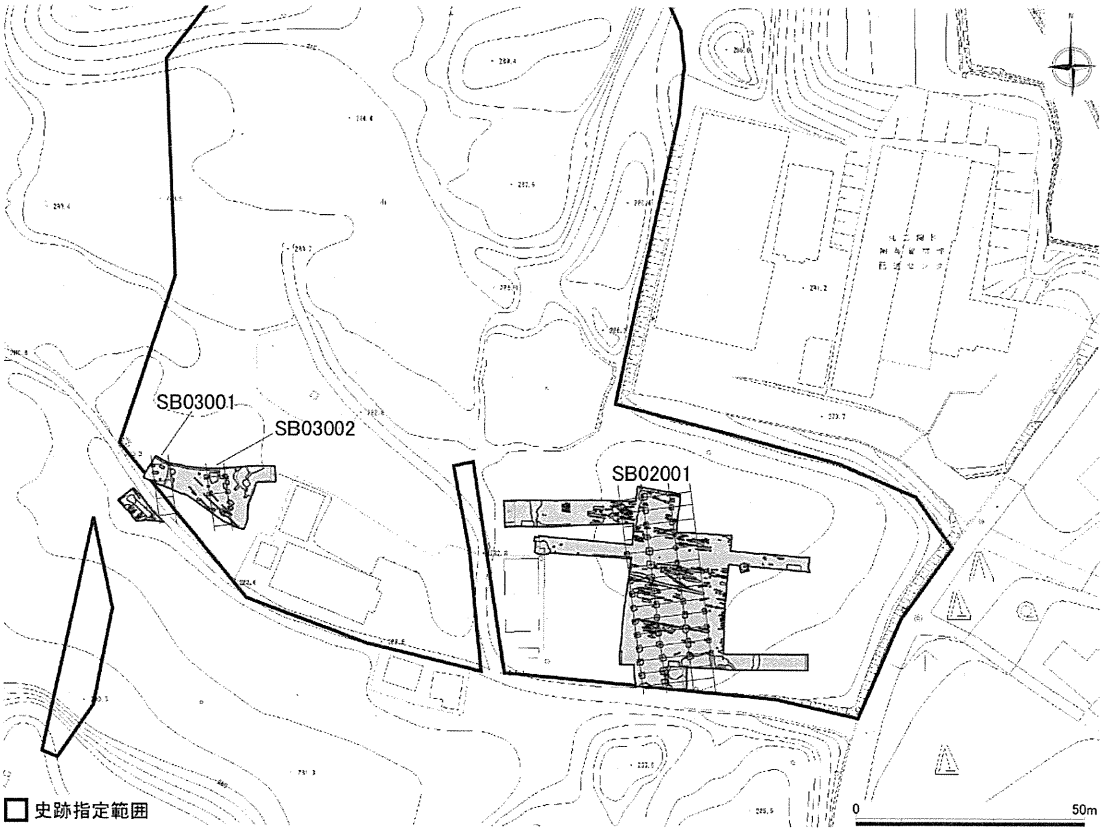
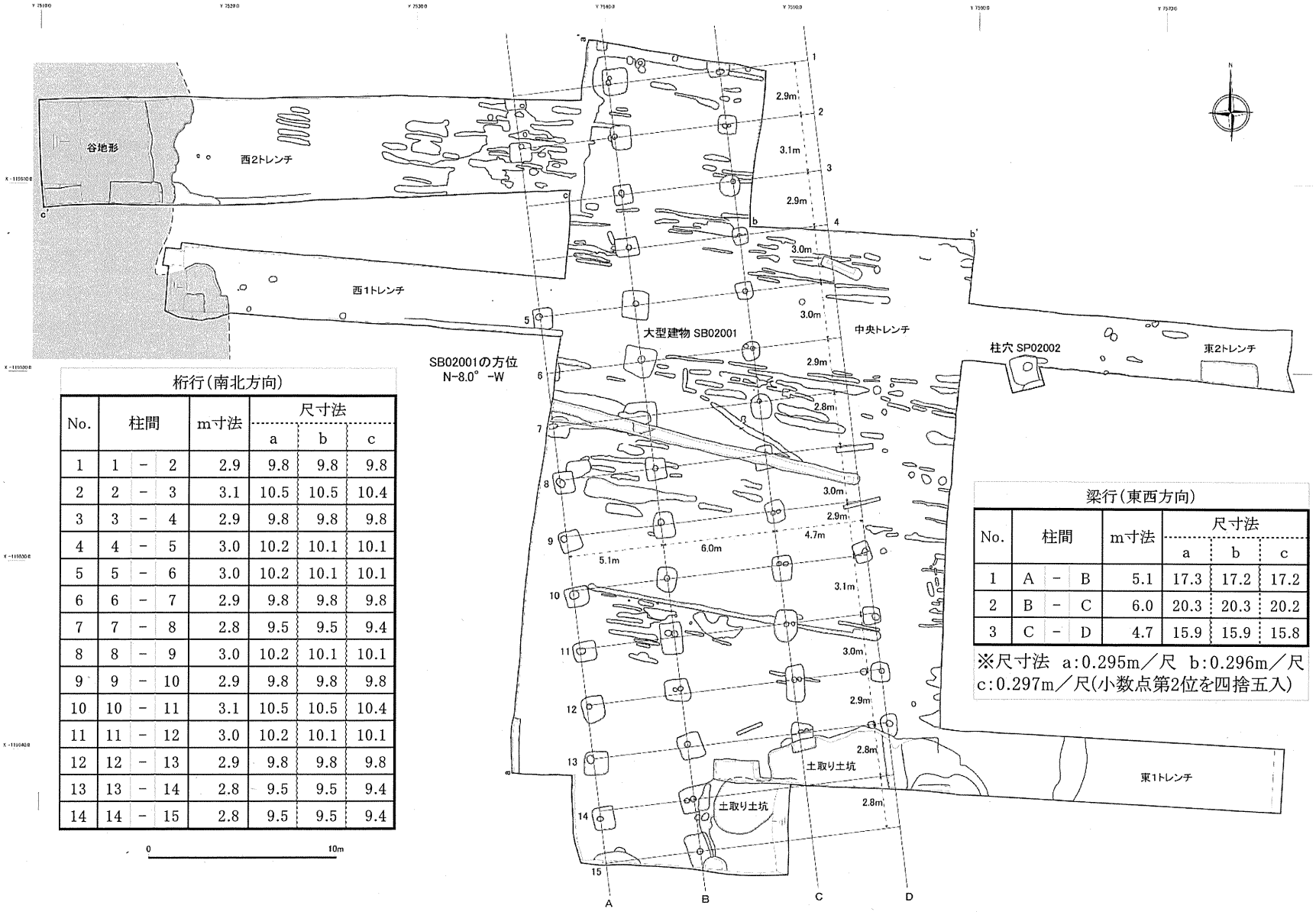


図５　東山遺跡第２・３次調査位置と検出遺構



桁行(南北方向)

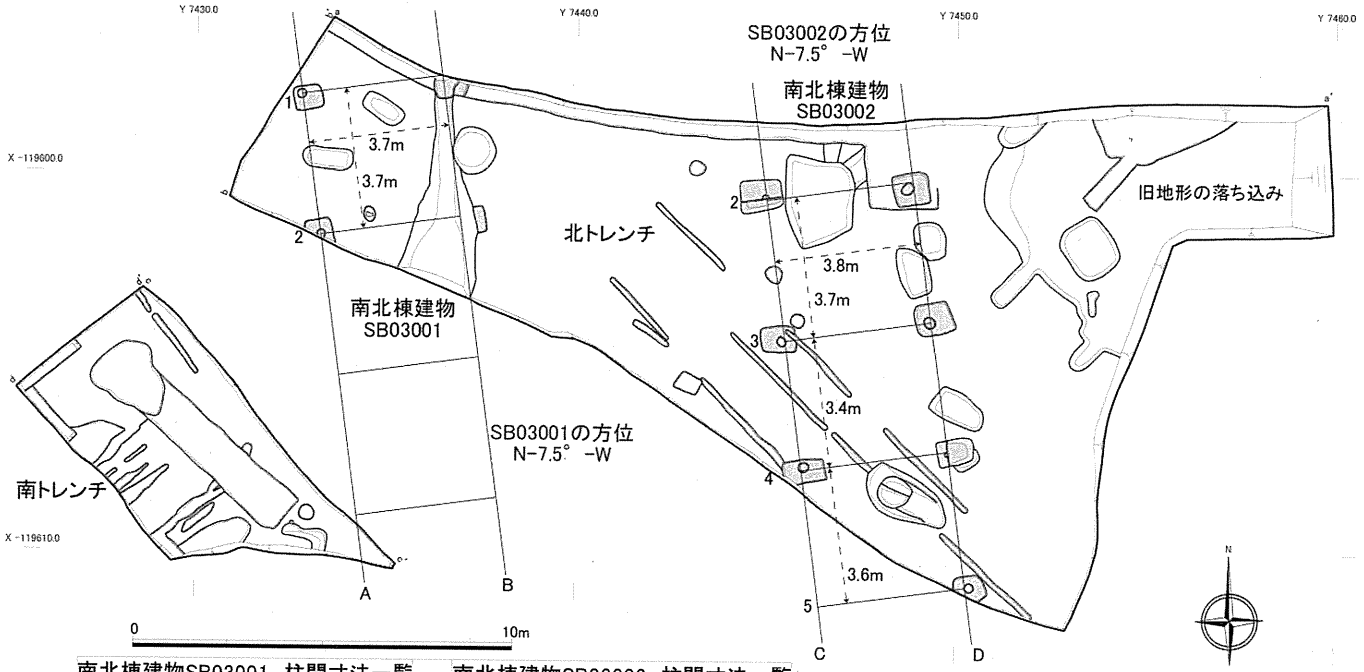
No.	柱間	m寸法	尺寸法		
			a	b	c
1	1 - 2	2.9	9.8	9.8	9.8
2	2 - 3	3.1	10.5	10.5	10.4
3	3 - 4	2.9	9.8	9.8	9.8
4	4 - 5	3.0	10.2	10.1	10.1
5	5 - 6	3.0	10.2	10.1	10.1
6	6 - 7	2.9	9.8	9.8	9.8
7	7 - 8	2.8	9.5	9.5	9.4
8	8 - 9	3.0	10.2	10.1	10.1
9	9 - 10	2.9	9.8	9.8	9.8
10	10 - 11	3.1	10.5	10.5	10.4
11	11 - 12	3.0	10.2	10.1	10.1
12	12 - 13	2.9	9.8	9.8	9.8
13	13 - 14	2.8	9.5	9.5	9.4
14	14 - 15	2.8	9.5	9.5	9.4

梁行(東西方向)

No.	柱間	m寸法	尺寸法		
			a	b	c
1	A - B	5.1	17.3	17.2	17.2
2	B - C	6.0	20.3	20.3	20.2
3	C - D	4.7	15.9	15.9	15.8

※尺寸法 a:0.295m／尺 b:0.296m／尺
c:0.297m／尺(小数点第2位を四捨五入)

図６　大型建物 SB02001 の平面図および柱間寸法



南北棟建物SB03001 柱間寸法一覧

梁行

No.	柱間	m寸法	尺寸法 a	尺寸法 b	尺寸法 c
1	A - B	3.7	12.5	12.5	12.5

No.	柱間	m寸法	尺寸法 a	尺寸法 b	尺寸法 c
1	1 - 2	3.7	12.5	12.5	12.5

※尺寸法 a:0.295m／尺 b:0.296m／尺
c:0.297m／尺(小数点第2位を四捨五入)

南北棟建物SB03002 柱間寸法一覧

梁行

No.	柱間	m寸法	尺寸法 a	尺寸法 b	尺寸法 c
1	C - D	3.8	12.9	12.8	12.8

桁行

No.	柱間	m寸法	尺寸法 a	尺寸法 b	尺寸法 c
1	2 - 3	3.7	12.5	12.5	12.5
2	3 - 4	3.4	11.5	11.5	11.4
3	4 - 5	3.6	12.2	12.1	12.1

図７　南北棟建物 SB03001・SB03002 平面図（上）および柱間寸法（左）

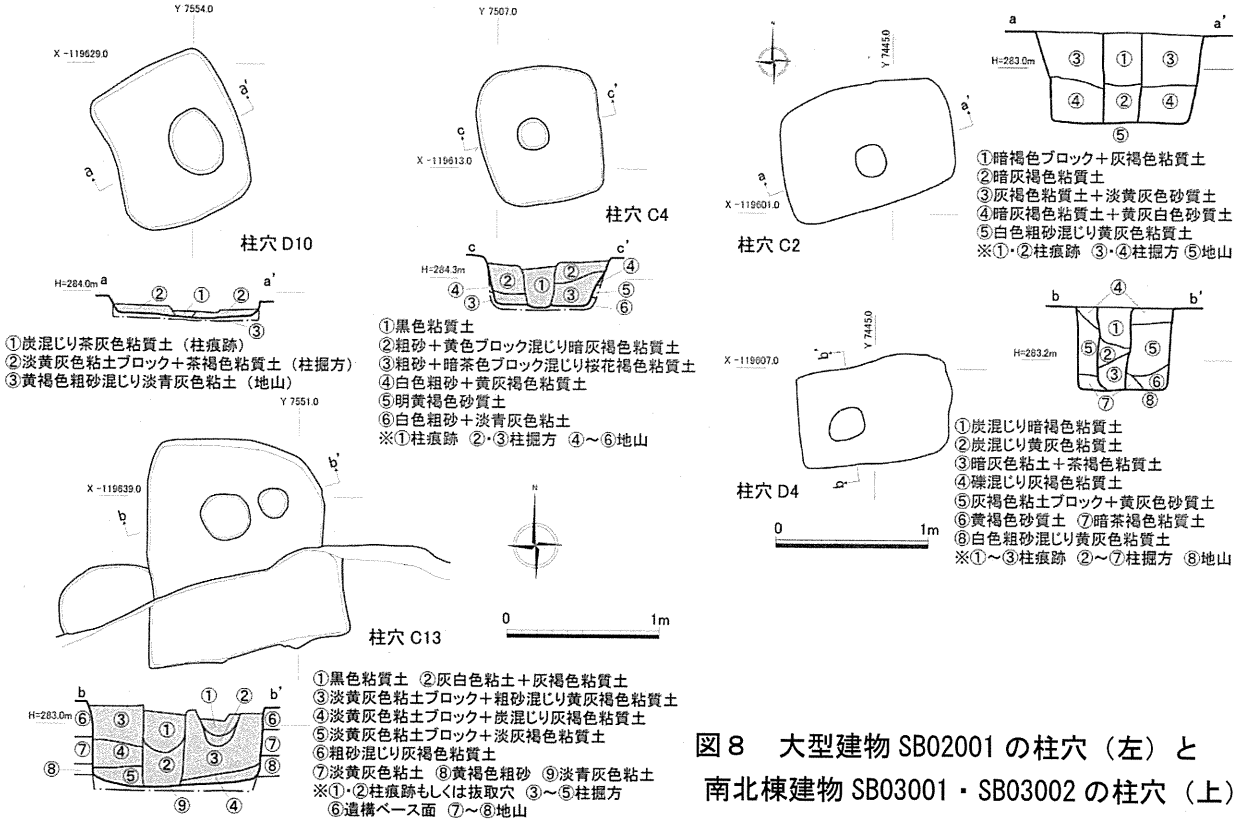


図８　大型建物 SB02001 の柱穴（左）と南北棟建物 SB03001・SB03002 の柱穴（上）

仮説No.	内容	可能性	肯定的根拠	否定的根拠
仮説1	離宮段階の紫香楽宮	低		旧地形の谷筋が入り込み、平坦面を確保できない 東西対称のコの字型配置にならない
仮説2	立柱式の臨時施設	低		大仏造立の場所が不明 東西棟建物ではない
仮説3	造甲賀寺所の関連施設	高	梁行1間の建物が鍛冶屋敷地区と共通性あり 床張りの構造が西田中遺跡と類似 上人ヶ平遺跡と立地条件で類似	工房を示す遺物の出土なし
仮説4	甲賀寺の関連施設	中	内裏野地区と近接した位置関係 同じ丘陵上に立地	甲賀寺の伽藍や寺域の規模が不明
仮説5	写経に関係する施設	中	床張りの大型建物の存在 文献史料に残る写経	写経に関連する遺物の出土なし

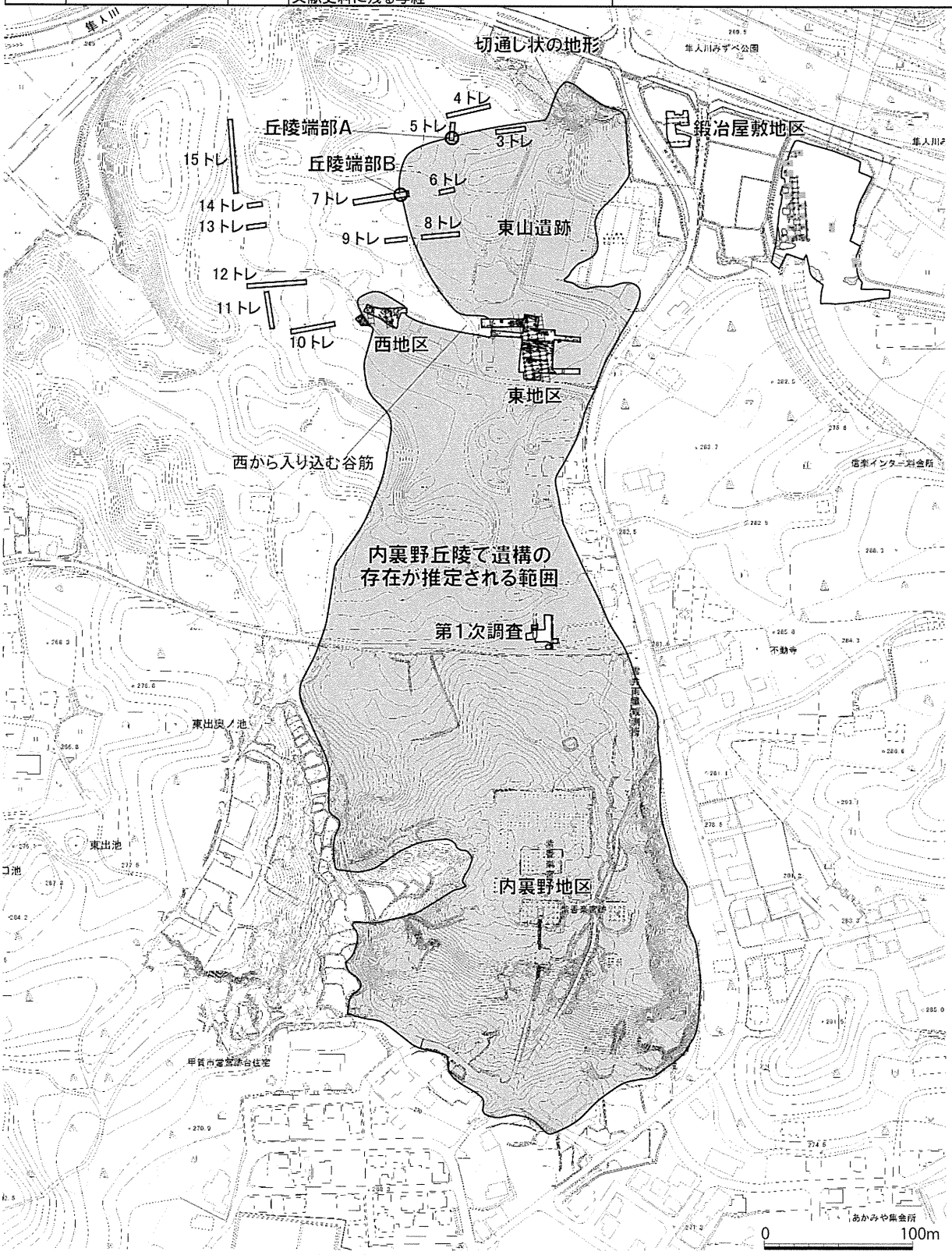


図９　東山遺跡周辺の旧地形の推定と性格の仮説

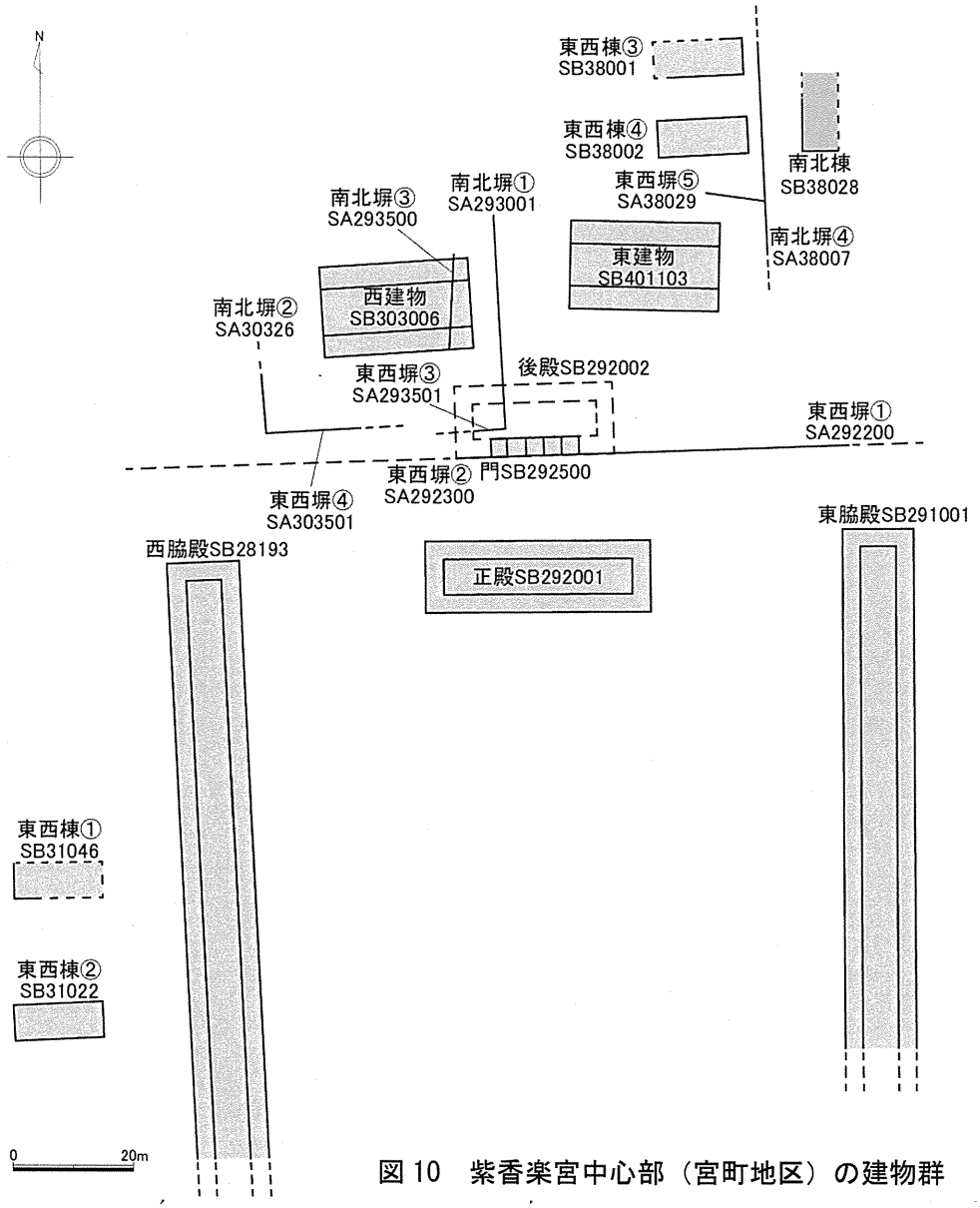


図 10　紫香楽宮中心部（宮町地区）の建物群

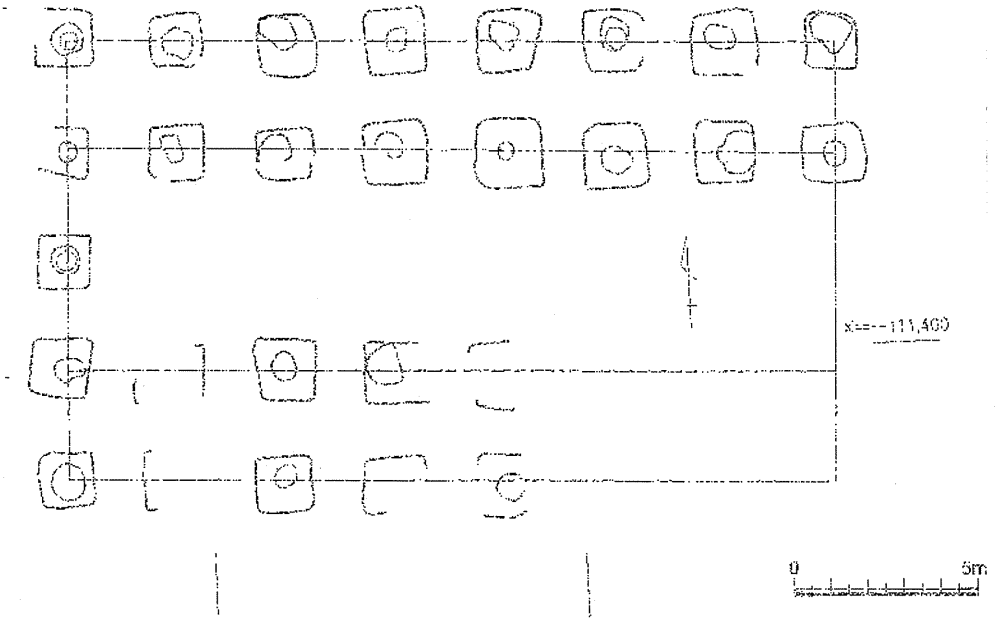


図 11　推定禾津頓宮（膳所城下町遺跡）の大型建物

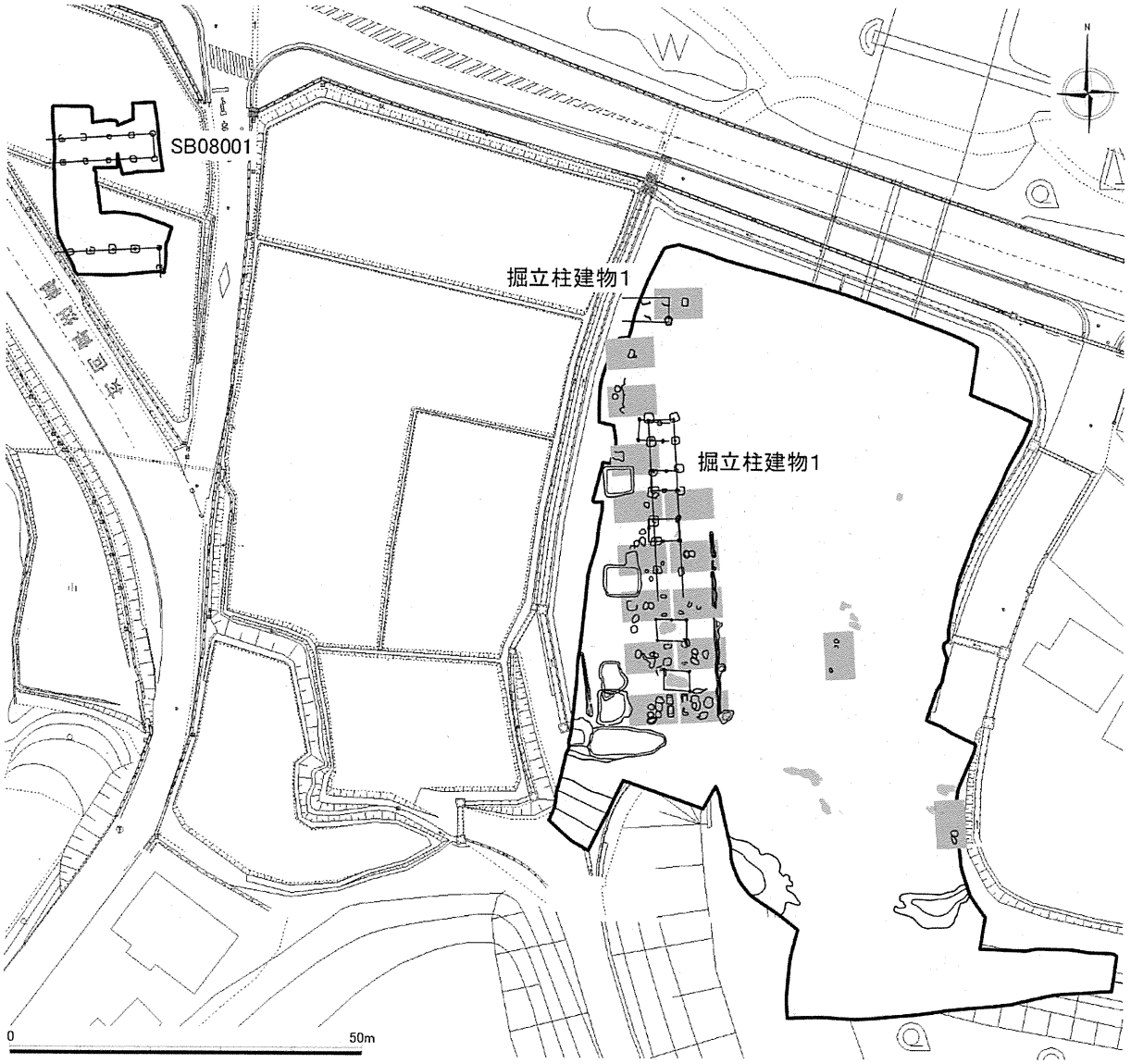
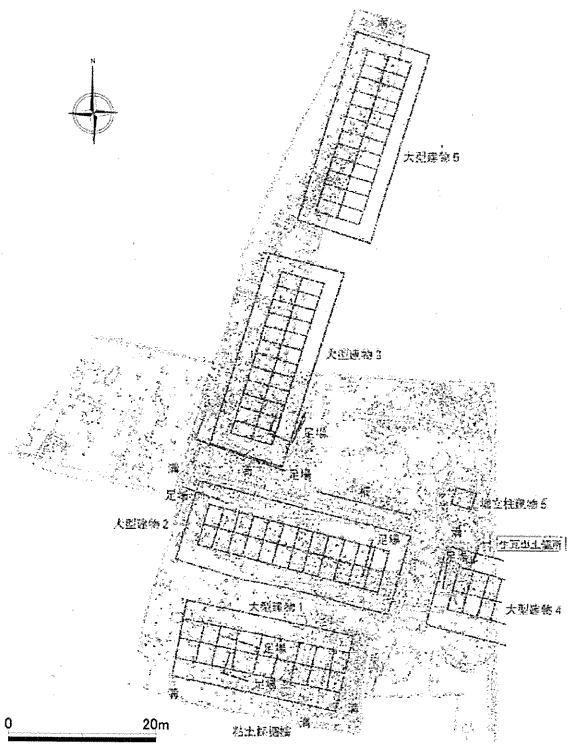


図 12　鍛冶屋敷地区の梁行 1 間の掘立柱建物



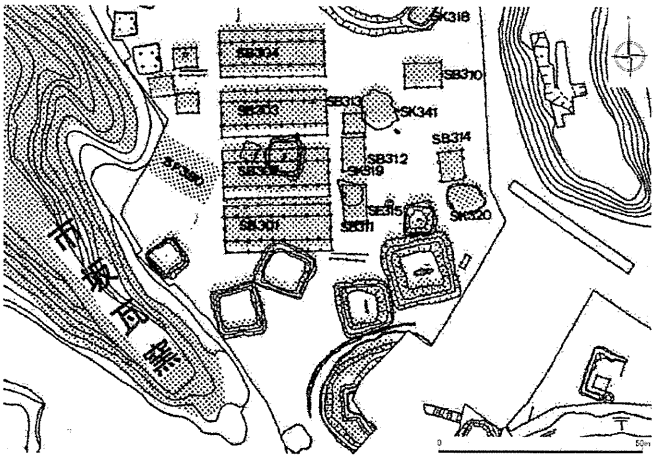


図 13　西田中遺跡の瓦工房（左）と
上人ヶ平遺跡の瓦工房（上）

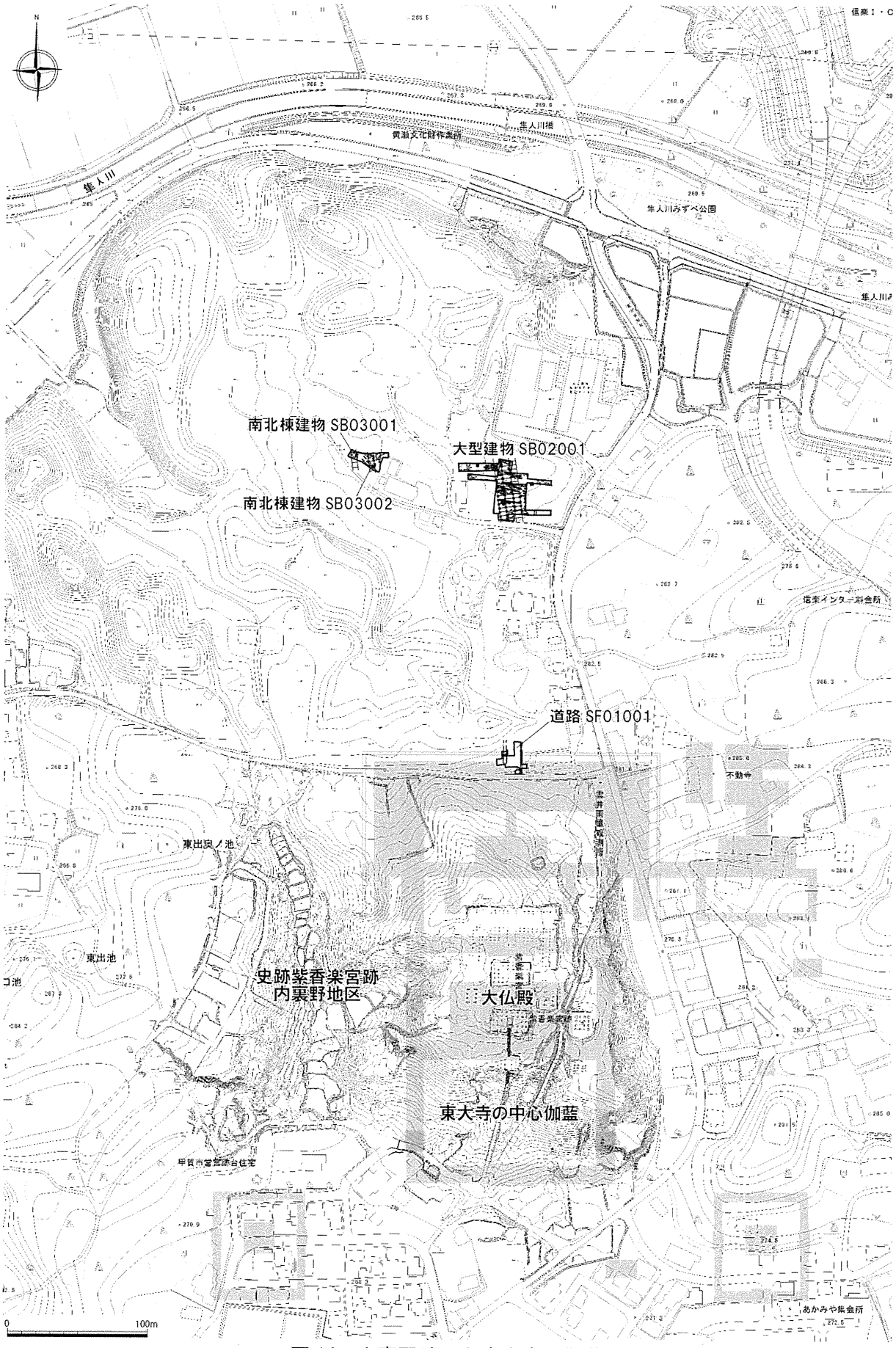
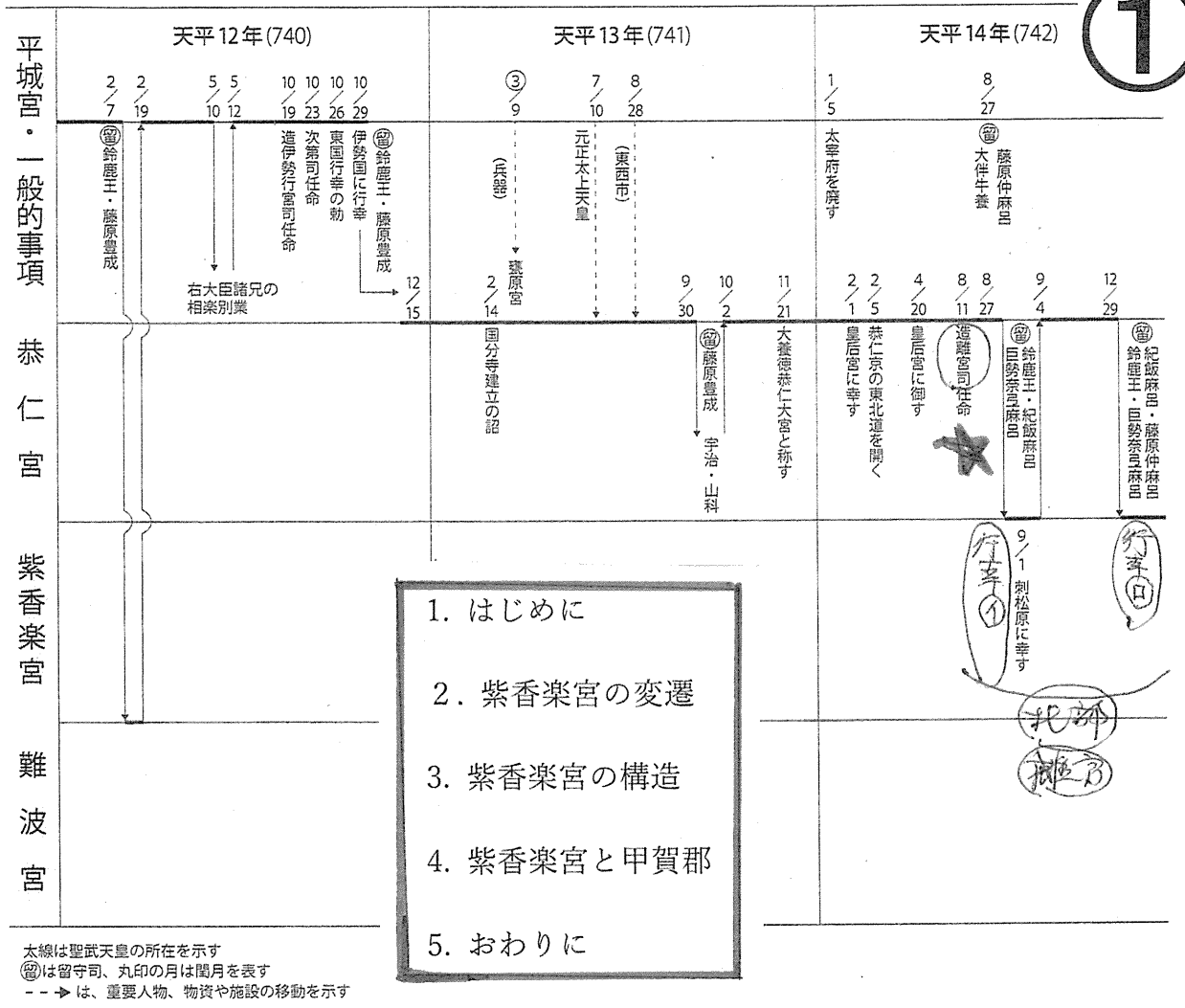


図 14　内裏野地区と東大寺の伽藍

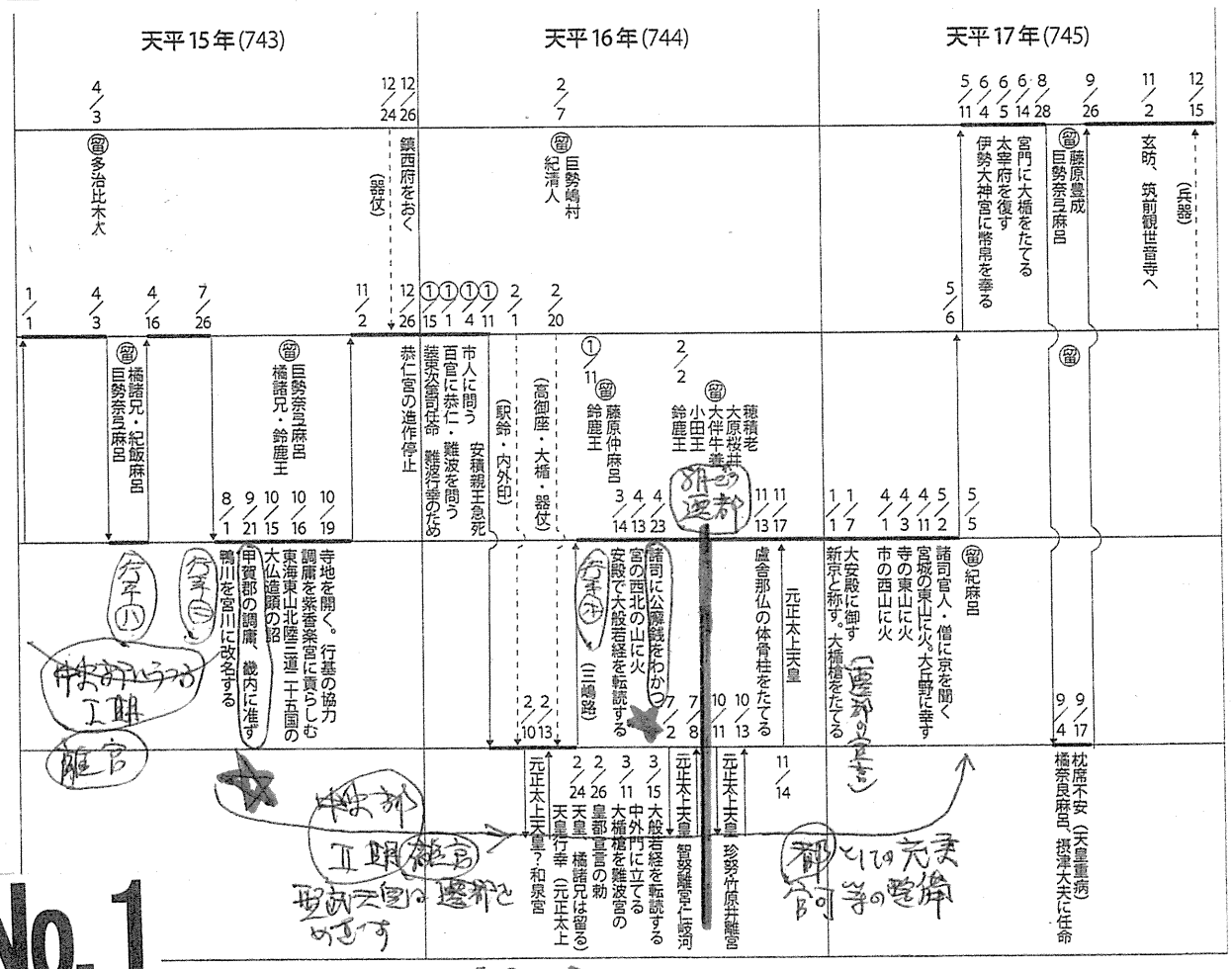
甲賀郡と紫香楽宮

紫香楽宮歴史フォーラム　二〇二三年三月一八日　於甲賀市碧水ホール　栄原永遠男

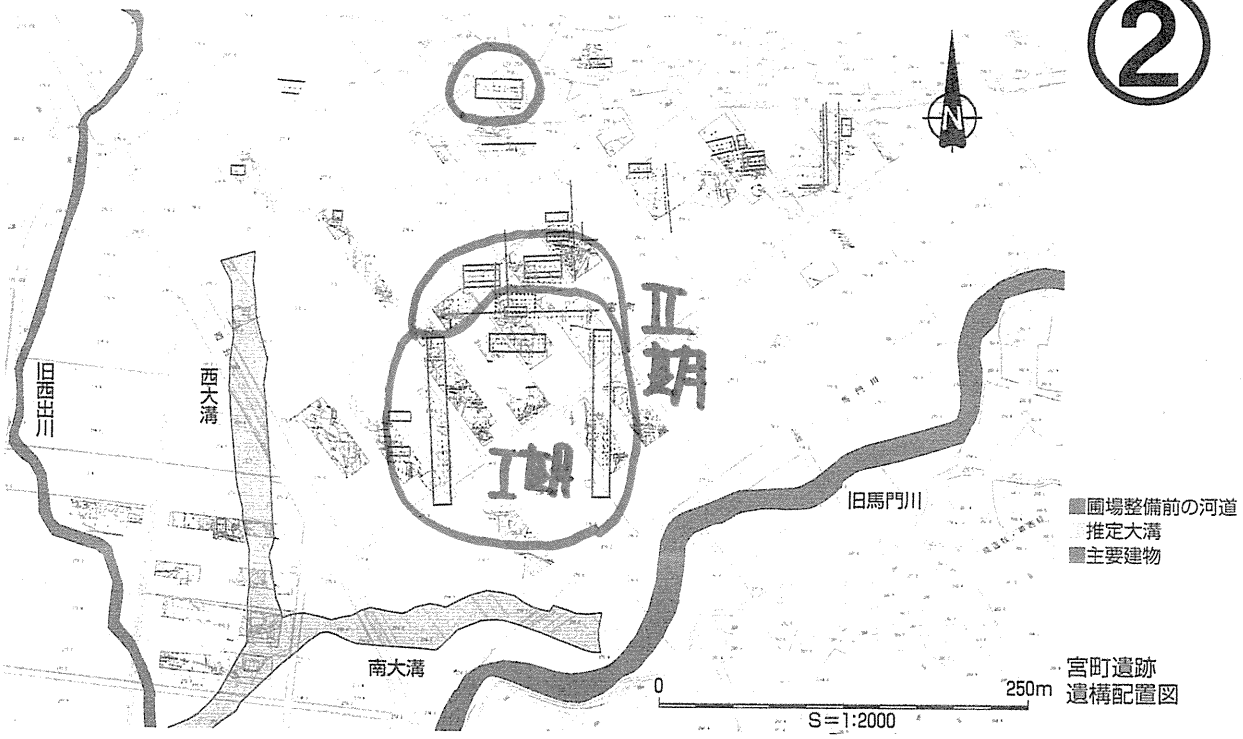


1. はじめに
2. 紫香楽宮の変遷
3. 紫香楽宮の構造
4. 紫香楽宮と甲賀郡
5. おわりに

太線は聖武天皇の所在を示す
(留)は留守司、丸印の月は閏月を表す
－－→は、重要人物、物資や施設の移動を示す

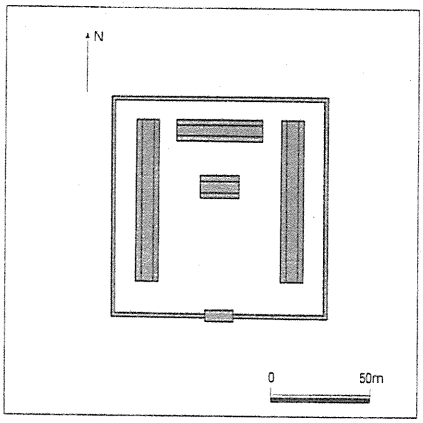


②



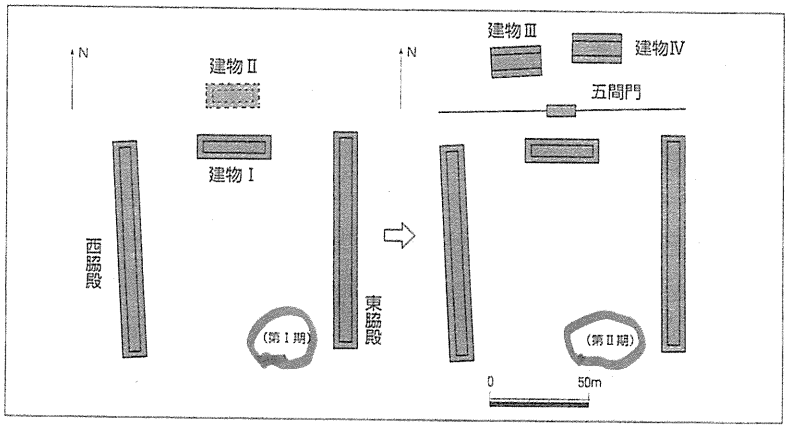
宮町遺跡
遺構配置図

③



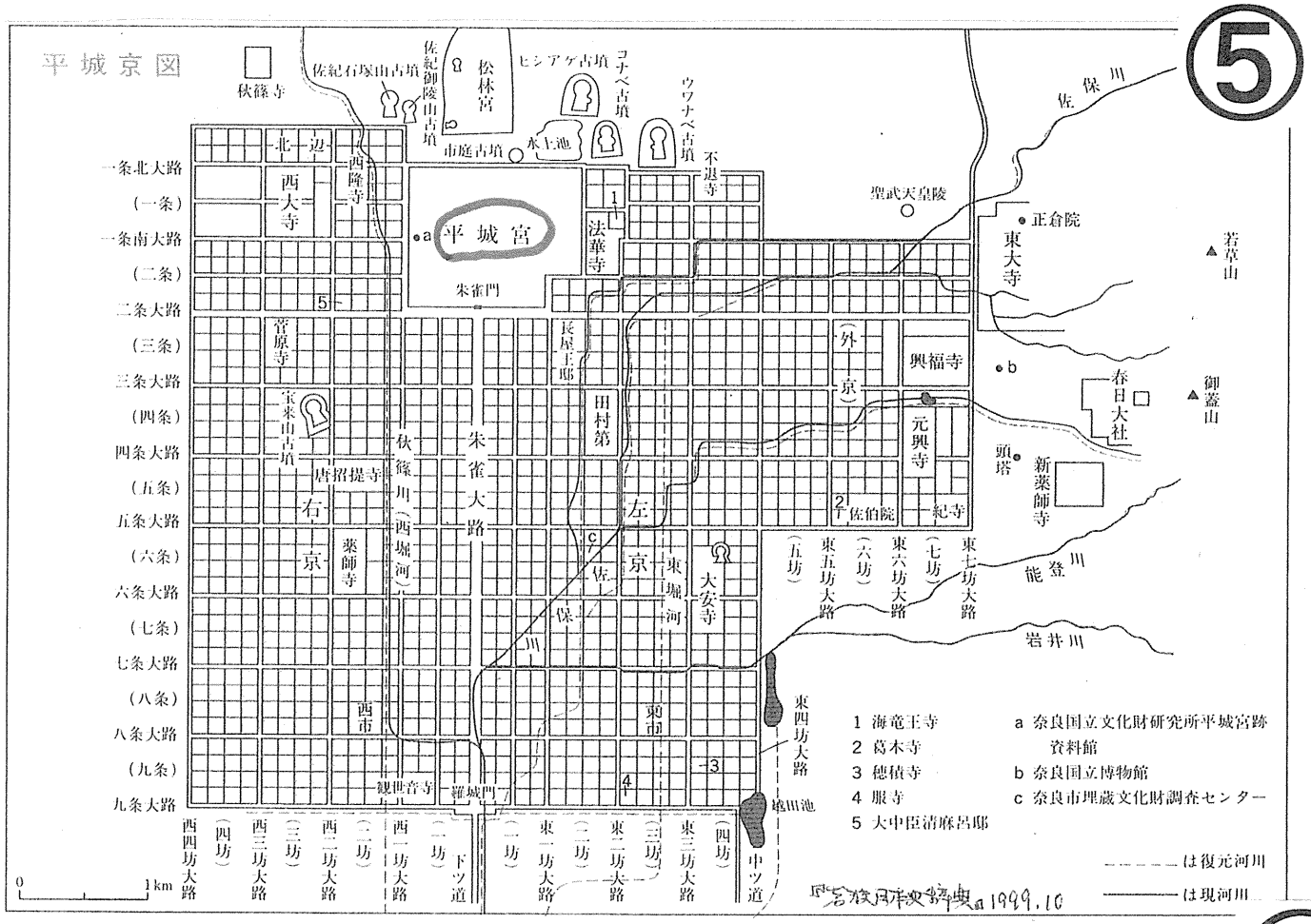
平城宮馬寮東方東区(西池宮)の建物配置

④



中心地区の推定変遷模式図

No.2



7

○造酒司解 正倉院文書

(正集三) ○紙面二宮内之印七ヲリ.

造酒司解 申請公粮事

米伍斗捌升 日二外 塩伍合捌夕 日二夕 已上、直丁新、布壹段 廝丁新

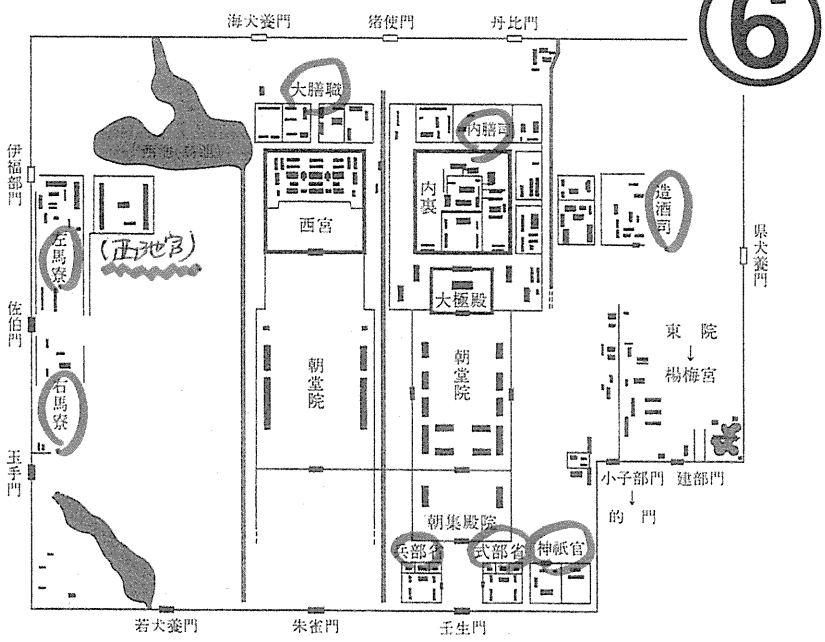
右、直丁一人、廝丁一人、并二人、来五月廿九箇日新、所請如件、以解、

天平十七年四月十七日 正八位下行員外令史日下部濱人連毛人

外従五位下行兼内膳奉膳勲十二等高橋朝臣國足

「合」※ 「玄合」※ 「勘」※

6



奈良時代後半

No.3

⑧

天平17年大粮申請解の残存状況

置廃等	官司名	2月	4月	8月	10月
	神祇官				○
	太政官				○
	中務省				
	中宮職		○		○
天平1.9設置	(皇后宮職)		○○		○
	左大舎人寮	○	○		
	右大舎人寮	○			○
	図書寮				
	内蔵寮		○		○
神亀5.8設置	(内匠寮)			○	
	縫殿寮				○
	陰陽寮				
	画工司			○	○
	内薬司			○	○
	内礼司			○	
	式部省	○○		○	
	大学寮				
	散位寮				
	治部省	○		○	
	雅楽寮	○			○
	玄蕃寮	○			
天平1.8司→寮	諸陵寮	○			○
	喪儀司	○			○
	民部省	○	○		○
	主計寮	○	○		
	主税寮		○		
	兵部省		○		
	兵馬司				
天平16.4廃、宝字1.8以前復置	(造兵司)				
	皷吹司		○		
	主船司				
	主(放)鷹司		○		
	刑部省	○	○		○
奈良前半の存否不明	(贓贖司)				
	囚獄司		○		
	大蔵省		○		○
	典鋳司				
	掃部司		○		○
	漆部司				
	縫部司				
	織部司				
	宮内省		○		
	大膳職		○		○
	木工寮		○		○
	大炊寮		○		
	主殿寮		○		
	典薬寮		○		
	正親司		○		
	内膳司		○		
●	造酒司		○		
天平16.4廃、景雲1.5以前復置	(鍛冶司)				
	官奴司		○		
	園池司		○		
	土工司				
	采女司				
	主水司				
	主油司				
	内掃部司		○		
	筥陶司		○		
	内染司		○		
	弾正台				
	衛門府				
	隼人司				
神亀5.8設置	(中衛府)				
	左衛士府				
	右衛士府		○		
	左兵衛府		○		
	右兵衛府		○		
	左馬寮		○		
	右馬寮		○		
	左兵庫		○		○
	右兵庫				○
	内兵庫				
●	左京職		○		○
●	右京職		○		○
	東市司				
	西市司				
	摂津職				
	春宮坊		○		○
	舎人監				○
	主(進)膳監				○
	主蔵監				
	主殿署				
	主書署				
	主漿署				
	主工署				○
	主兵署				
	主馬署				
●	(造甲賀寺司)		○		○
	(造宮省)		○		○
合計86通		14	38	6	28
残存率		12.9	43.5	7.1	30.6

○は大粮申請文書が現存する官司。
○が2つあるのは再申請。
残存率は、造甲賀寺司・造宮省をのぞく85官司についての比率。

No.4

1～5:史跡紫香楽宮跡(1:宮町地区 2:新宮神社地区 3:鍛冶屋敷地区 4:北黄瀬地区 5:内裏野地区)
6:宮町遺跡 7:新宮神社遺跡 8:北黄瀬遺跡 9:鍛冶屋敷遺跡 10:東山遺跡 11:東出遺跡 12:紫香楽宮東遺跡 13:雲井遺跡

図3 紫香楽宮跡関連遺跡群の位置関係(網掛けは指定範囲) 1:25,000 市教委2011より引用・改変

天平17年の火事と地震

	火事	地震	一般事項
4月1日	市の西の山		
3日	寺の東の山		
8日	伊賀国の真木山、三日四日滅えず、延焼数百余町		
11日	宮城の東の山の火、通日滅えず		
27日		ひと晩中地震、3日3夜つづく、美濃国内に大被害	
5月1日		地震	諸司の官人に京を問う
2日		地震	恭仁宮の掃除
3日		地震	四大寺僧に京を問う
4日		地震、日夜止まず	聖武天皇、恭仁宮に遷る
5日		地震	聖武天皇、泉橋に到る
6日		地震	平城宮の掃除
7日		地震	大集経の読経
8日		地震	
9日	甲賀宮辺の山の火、近江国民に滅させる		
10日		地震	
11日	甲賀宮 火もまた滅えず	地震	恭仁宮の市人、平城へ
		地震	聖武天皇、平城に行幸
16日		地震異常、しばしば坼き裂きて、水泉湧出	甲賀宮、無人状態、盗賊が満ちる、宮物を回収
18日			
是の月		地震	
7月17日			
8月24日		地震	
28日			難波宮に行幸
29日		地震	
9月2日		地震	
25日			聖武天皇、平城に還る

11

○近江國甲可郡藏部郷墾田野地賣買券 東寺文書

○紙面ニ近江國印三十ア、

甲可郡司解　申賣買墾田并野地立券事（所在地）

合墾田貳拾壹町　野地參町 東谷 南溝 北佐遅谷 西川　在藏部郷者

右左京五條三坊戶主從五位上阿倍朝臣嶋麻呂墾田者

以前、得嶋麻呂申狀偁、以己墾田并野地、賣与大倭國高市郡弘福寺大徇多羅衆已訖、所得價錢貳佰參拾貫者、仍勒賣買兩人所連署名、依式立券如件、仍具録事狀、附使大初位上鷹養君安麻呂申上、以解、

（賣人）從五位上阿倍朝臣嶋麻呂

（買）弘福寺大徇多羅衆

大鎮兼大上坐法師 蓮勝

少鎮僧 榮猷（猷）

上坐僧 林藏

都維那僧 榮徇

寺主兼大學頭僧 惠輿

少學頭僧 善勝

弘福寺三綱

天平勝寶三年七月廿七日主帳无位川直百嶋

擬大領外正七位上甲可臣乙麿

□領无位甲可臣男

國判依請

介從五位下熊凝朝臣五百嶋　少掾正六位上播美朝臣奥人

員外少目正七位上穴太史老

醫師少初位上物部艸甫 連束

天平勝寶三年八月二日

国判　郡判

所有者一名人

買人

甲賀郡

老上　於波加三美（高）（多）

眞身　奈良美

山道　也末奈保（奈）

藏部　久良へ（高）（奈）
　　久良布

甲可臣真束

12

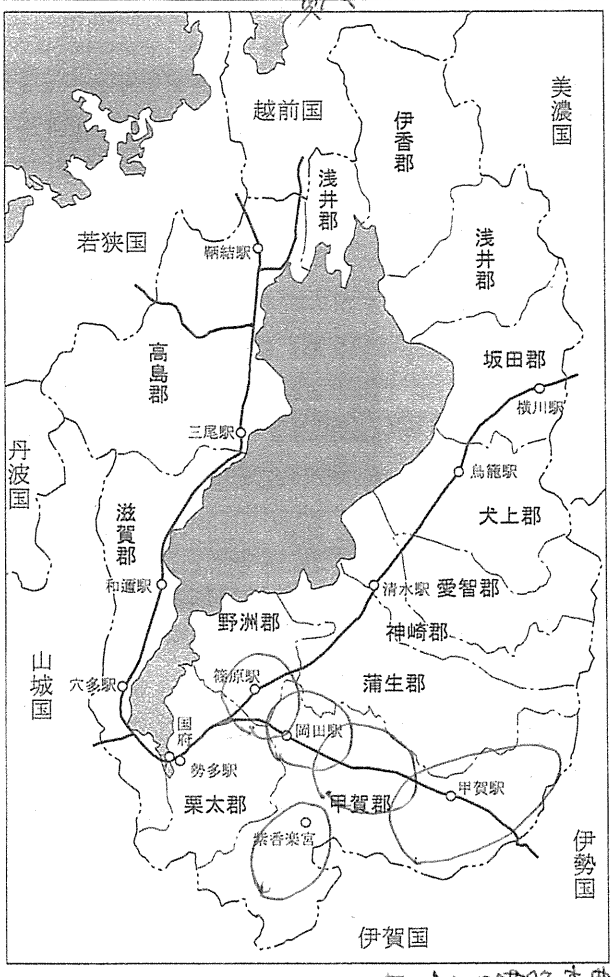


図1　全体図　『日本古代道路事典』八木書店、2011年5月
古代交通研究会編

No.6